

「コシヒカリ」の栽培ごよみ

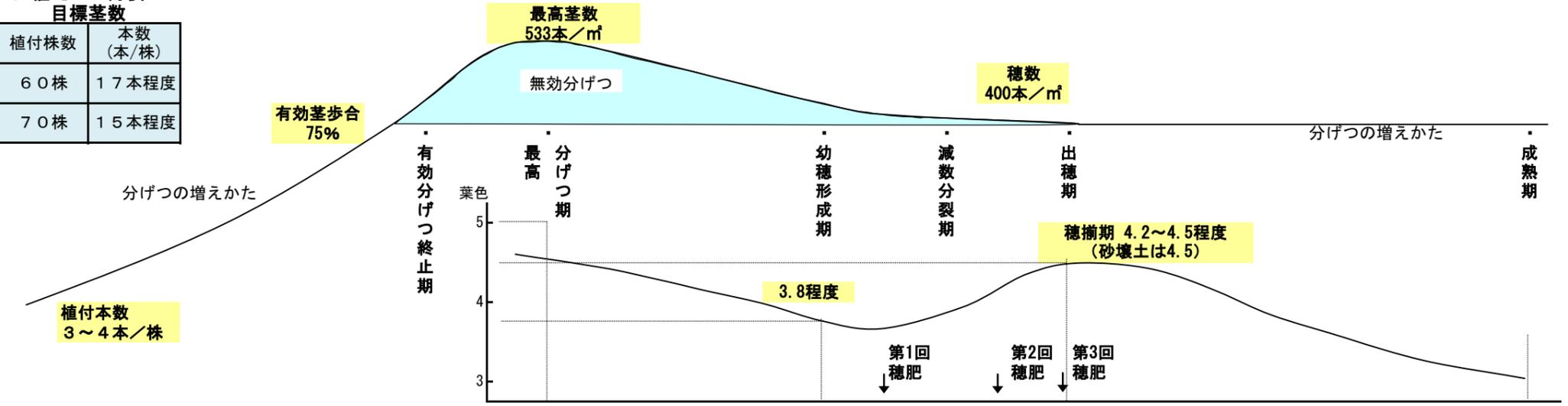
収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当たり最高茎数 (本)	533
有効茎歩合 (%)	75
㎡当たり穂数 (本)	400
平均一穂粒数 (粒)	70
㎡当たり着粒数 (百粒)	280
登熟歩合 (%)	87
玄米千粒重 (g)	22.5

田植え1か月後の目標茎数

植付株数	本数 (本/株)
60株	17本程度
70株	15本程度

植付本数 3~4本/株



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
草刈時期	★		★		★ 出穂 ←本田防除以降、収穫までは草刈りをしない→ ★			
生育区分	育苗期	活着期 田植期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期 出穂23日前	穂ばらみ期 出穂10日前	登熟期	収穫期
水管理		やや深水	浅水管理 軽めの田干し	中干しの徹底 除草剤散布時は深水を保つ	間断かん水	幼穂形成期以降は飽水管理 (足跡の水が切れないように管理)	出穂から20日間は湛水状態を保つ	落水を急がない
栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土づくり資材の散布 ・ ゆつくりと耕起し、作土 15 cm 以上を確保する ・ 田面の均平をよくする ・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120 g 以下としてよい苗を作る ・ 天候に合わせた温度管理を確実に行う ・ 基肥量は地区基準量を守る ・ 病害虫予防のため育苗ハウス外で散布する ・ 育苗薬剤は育苗ハウスの外で散布する 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月15日頃を中心に田植を行い荒天時の田植は避ける ・ 田植機の株数設定は 70 株/坪 に設定して作業を行う ・ 一株の植付け本数は 3 ~ 4 本とし、3 cm 程度の深さに植える ・ 全層施肥の場合は早期追肥を田植後7日以内に施用する ・ 田植後3日間はやや深水として活着を早める ・ 良質の茎を早く確保する ・ 活着後は浅水管理とし、分けつの発生を促す 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 中干しは(田植後4週間までに開始する) ・ 田植後4週間までに溝掘りを行い、水のかん排水の効率化を図る ・ 除草剤散布は適期に行い、散布後5日間は湛水状態を保つ ・ 中干し後は間断かん水をくり返し土壌を固くする ・ 適正な中干しにより、根の活力を高めるとともに過剰分けつを抑制する 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼穂形成期の葉色を 3.8 程度に誘導する ・ 畦畔草刈りでカメムシ密度を下げる ・ 分施肥体系の場合 ・ 1回目穂肥は幼穂長 15 ~ 20 mm を確認してから慎重に行う ・ 2回目穂肥は1回目の7日後に確実にを行う ・ 分施肥体系の場合 ・ 幼穂形成期以降は飽水管理(足跡に水が切れないように管理する) ・ 出穂から20日間は湛水状態を保つ ・ 本田防除の徹底(適期防除の実施) ・ 3回目穂肥は葉色に応じて出穂直前に行う ・ 穂揃期の葉色を 4.2 ~ 4.5 に誘導する ・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する ・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ ・ 刈取り予定日の5 ~ 7日前まで間断かん水する ・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ ・ 刈取り前には必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る ・ 過乾燥による胴割米を発生させない ・ 仕上水分 14.5 ~ 15.0 % ・ 適期内に刈取り、刈り遅れのないように注意する ・ 籾の黄化率 85 ~ 90 % 程度が刈取り適期 ・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る ・ 稲わらの腐熟を促進するため、秋起こしを行い、排水溝を設置する ・ 土づくり肥料はそれぞれの基準量を確実に施用する 	